

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 秀溪会 いきいきっ子クラブ国東(児童発達支援事業)		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 8日		2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職(OT、ST、保育士)がそろっており、それぞれの専門性を活かした、支援を提供している。	・個別の活動では、それぞれの専門性を活かし、個々の特性に合わせた訓練を提供している。保育の集団では、楽しく療育活動に取り組めるように工夫し、子ども達に寄り添った支援を提供している。	・スタッフの専門性をさらに高めるために、研修や他施設の訪問等を行ない、視野を広げて支援ができるよう取り組んでいきたい。
2	・常に保健師や他の療育機関とも連携を図っている。	・子ども達の就学や今現在必要な支援などを、保健師と連携を図りながら、保護者にアドバイスしたり、保護者の気持ちに寄り添った支援ができるように心がけている。	・これかも、他の療育機関等と、連携を図りながら、スタッフの質の向上を目指して、より良い支援を提供していきたい。
3	・スタッフ同士の連携が取れている。	・職員の個々の意見を出しやすいように、日頃から職員が話しやすい雰囲気づくり、環境づくりを目指している。	・職員の働きやすい環境こそが子ども達にとって、居心地の良い環境となるので、これからも子ども達の居心地の良い環境づくり、雰囲気作りのために常に意見交換ができる環境にしていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
4	・いつも利用定員がいっぱいで、今支援が必要で、利用したい子どもがすぐに利用できない。	・地域に事業所自体も少なく、移行支援もおこなっているが、利用枠自体もないので、難しい部分もある。	・地域移行のところでは、本人や保護者の意見に寄り添いながら、その地域の状況なども確認しながら、慎重に進めていきたい。
5	・各種マニュアル関係の徹底、周知	・保護者の方々へ事業所にあるマニュアルの周知徹底が不十分な状況。	・おたより等で、現在実施している訓練や各種マニュアルを保護者の方へ周知する必要がある。玄関にも各種マニュアルを掲示し、保護者が目にするようにしていきたい。
6	・朝礼時、引継ぎ時などの時間は設けているが、一日の終わりにその日の反省をする時間がない。	・帰りの送迎に、時間がかかるのでその日の終わりに職員を集めての振り返りをする時間を取れない。	・送迎の時間やモニタリング等の時間の取り方を工夫し、引継ぎの時間をもっと取れるように工夫していきたい。